

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572104297		
法人名	社会福祉法人 比内ふくし会		
事業所名	グループホームやまぼうし (くらかけ)		
所在地	秋田県大館市比内町新館字真館21番地7		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年2月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者の皆様が安心して生活でき、家族様の不安を解消できるように入居者や家族の意向を確認したり、健康面ではかかりつけ医との連携を強化し急変時のフォローができています。
- ・同じ敷地内にある特養連携し防災計画を基に夜間体制の確保や消防避難訓練を実施し、災害時に備えた体制が整備されている。
- ・家庭菜園を活動に取り組み「土」に触れる環境をつくり、収穫した野菜は食材に使用されている。
- ・個々の役割も確立されており快適に楽しく安全な生活が送られている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

移転新築したばかりで、とても明るくきれいな建物である。同一敷地内には同法人の4事業所が隣接している。敷地の中心部には今後、広場が整備予定となっており、日常的な外出に一役買ってくれるものと、利用者も職員も楽しみにしている。移転前は畑での活動があったため、移転後の場所でも少しずつ作っていきたいとのこと。利用者が生き生きと働く事が健康の秘訣であると、利用者一人ひとりが役割を持ち、その役割を継続できるよう支援している。認知症だからと自分たちの思い込みで囚われず、まずはきちんと本人と話し合い、どこまで理解できるかを見極め支援している。職員の働きやすい環境作りにも力を入れており、有給休暇の取得状況を確認したり、子育て支援にも気を配ったりしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関等、目につく所に掲示しており、常に意識している。	毎年4月に理念の見直しを行っており、支援を受けながらも、その人らしい生活を送って欲しいとの思いから、「自立」という言葉を「自律」に変更した。一人ひとりの生活のリズムを大事に支援しており、朝だから起きるではなく、一人ひとりの目覚め方を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の馴染みの店(散髪店)に行っている。	事業所は12月に移転したばかりで、同じ敷地内では以前から同法人の他施設も運営されている。近所にある福祉センターでイベントがある際は、入居者の体調を考慮しながら参加している。現在は、移転した地域での交流会など検討中である。	同じ敷地内には特別養護老人ホーム等4施設あり、複合的な機能を有している。そのためこの敷地内で交流等ができるが、今後地域の行事に参加したり、また地域を巻き込む等の活動に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	毎月のお便りの発行時、認知症ケアについて掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告を行い、出席者からは専門的な意見や家族の思いをいただいている。また、入居者の支援に活かしている。	事業所の報告が行われるほか、市から他施設における事故状況等の情報提供があり、注意喚起の場となっている。さらに会議で話題となった事故状況を元に職員間で話し合い、注意が必要な点を確認することでサービス向上につなげている。運営推進委員には薬剤師がおり、調剤の傾向から地域で流行している感染症の話題などが出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者や包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、相談や情報のやり取りがある。また、サポートセンターとも連携を図っている。	個別ケア会議にて生活保護担当や福祉係等の市職員、地域包括支援センターの職員、民生委員と成年後見制度の活用について話し合いを行っている。今後も地域包括支援センターと連携を図りながら検討を継続していくこととしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は活動時間は施錠しておらず、入居者が外に出た際は職員が付き添っている。内部研修も行い、理解を深めている。また、委員会も設置されている。	毎年社内研修を行っている他、身体拘束防止委員会を設置し、運営推進会議を利用しマニュアルの確認や話し合いを行っている。特にスピーチロックには気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を行っている。また、スピーチロックなどについても、注意して業務に当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に十分な説明を行い、入居者やご家族に不安の内容に配慮している。また、同意を得て署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に第三者委員の掲示をしている。また、玄関に意見箱を設置している。その他、面会や手紙・電話などで近況を伝え、要望を確認する様努めている。	近況を伝えた際に直接意見を話してくれる家族が多く、その都度対応している。病院の受診の付き添いが難しい場合は職員が対応するようにし、入院し事業所を一旦退去することになった時には法人内の居宅支援事業所や、特別養護老人ホームに相談するなどしている。また、法人として家族向けに、年1回アンケートを実施し、出された意見を基にして話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	忌憚のない意見を気軽に言える雰囲気づくりを行い雑談の中から問題点を探る様にしている。	職員の意見は、主にカンファレンスの際に出されている。小さな事でも話し合い、変えた方が良い事は変えてみることで、意見を気軽に言える雰囲気づくりをしている。法人として取り上げ検討して欲しい内容は、法人内の各委員会へ伝え検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修・資格取得への支援を行っている。また、年次休暇や産・育児休暇・子の看護休暇・誕生日休暇などが整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修が行われている。また、本人研修希望の確認を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の思いや要望に耳を傾け、入所後もご家族の協力を得ながら安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて本人・家族の意向を確認している。その後も、随時要望を確認し相談に応じている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の負担にならないよう、協力しあい生活できる関係を築くよう努めている。日課の家事や軽作業を一緒にやっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会・外出など家族との関係が継続できるよう配慮している。また、受診なども協力を得ながら対応している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ病院への受診や馴染みの場所へ外出することにより、馴染みのある方との交流が継続されている。これからも関係が途切れないよう配慮していく。	入居前に行っていた美容院に継続して通いたいとの要望にもきちんと応え、交流が継続できるよう支援している。縁が途切れないよう、病院の受診の際は地域の馴染みの人との会話を満喫し、帰ってくるようにしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係把握に努め利用者全員が交流できるような環境をつくっている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の様子や相談支援など担当ケアマネとの情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向の把握に努めている。困難な場合は、生活の中から思いを検討している。	入居して長い人も、入居したばかりの人も、生活における様々な場面で、本人の意思を確認するよう取り組んでいる。本当に好きなのか、やりたいことなのかを見極め、一人ひとりの暮らし方を見つめていこうと話し合い、検討している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や記録の整理を行い、職員間で共有しサービスにつなげていくよう努めていきたい。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、食事、バイタル。排泄などの記録を行い、日々の生活の変化に気付くように見守りと引継ぎを行っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で気づきを出し合っている。また、ご家族の意向も面会や電話連絡時に意見や協力をいただく様になっている。	計画作成担当者が日常業務に入っているため、スタッフ全員で支援内容を確認することができない。家族に事業所内の利用者の様子を伝えながら、本人と家族の意向を踏まえプランを提案し作成している。新聞を読むことが習慣となっている利用者が、すでに字を読むことが難しい状況となっても、要望により購読を継続した事例を確認した。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や生活状況は、PC内で入力し情報を共有している。日誌やノートを活用し、気づきを共有している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と関わりがあった方、行政、公的なサービス(サポートセンター)を含めたインフォーマルな支援をしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力病院の協力により、適切な医療を受ける事ができるよう支援している。かかりつけ薬局の協力も得ている。歯科については、訪問診療もお願いしている。	家族とのつながりが少なくならないよう、家族の協力を得て受診に同行してもらっているが、対応が難しい時には職員が付き添っている。インフルエンザの予防接種は、日ごろの症状を理解している医師が注射した方が良いという考えのもと、それぞれのかかりつけ医にお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHIに看護師の配置はない。受診の際にかかりつけ医の看護師に相談を行ったり、必要に応じて同敷地内にある特養の看護師へ相談する事もある。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟や連携室看護師と情報を交換し相談している。また御家族の了解を得て、医師の病状説明にも同席している。出来るだけ早期に退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては看護師の配置は行っていないことを入所時に説明し、状態変化があった場合は、ご家族と相談し出来る事を説明しながら対応している。	看取りを行っていない事は、入居時に説明しており、重度化した際は特別養護老人ホーム等他施設への申し込みを行い、次の施設にスムーズに移行できるよう支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自己急変時マニュアルに従い、急変時は即、受診対応が取れるようかかりつけ医と連携している。職員間の連絡網により夜間帯の急変時にも応援要請が整っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っている。水害については前年度は災害支援ネットワーク避難訓練を実施。災害時の、法人内の協力体制も出来ている。	移転前の事業所は水害の心配があったが、現在は解消されている。大館市の災害支援ネットワークは、他法人同士が駆け付けたり、避難支援する体制ができあがっている。4施設が集約された現在地での消防体制について、消防署も交えて相談・検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの個性を把握し、状況に応じた対応を行っている。また、声掛けについては、職員間でたがいに注意して取り組んでいる。	日ごろの支援における言葉掛けが、画一的になっていないか、同じ言葉掛けで良いのか等、一人ひとりの違いを理解することが大切であることを説明している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気を作り、本人の意向に沿った対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援している。又、継続して趣味活動が行える様、支援を行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と協力し、希望時応じて散髪を行っている。また、可能な限りなじみの店を利用し在宅時と同様に化粧の時間やおしゃれを楽しむ事を支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量・体調に合わせて一緒に行っている。また、好みに合わせて、代替えも行っている。季節に合わせて時期の料理を提供している。	普段は職員が冷蔵庫にある食材を見て、栄養バランスを考えながら作っている。誕生日には食べたい物の希望を取り入れた献立にしている。以前は畑でジャガイモを植えて収穫を楽しんでいたが、移転した場所では畑の整備をしていないことから、これからもジャガイモ等野菜の収穫が楽しめるよう検討している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分ともに一日の状況を把握している。一人ひとりの好みに合わせて対応している。水分量、食事は記録に残し観察を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいの声かけや見守り、確認を行い、就寝前は義歯洗浄・消毒を行っている。口腔内の異常、義歯不具合には訪問歯科での対応を行っている。緑茶での嗽いを取り入れている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンの把握に努め、誘導を支援している。必要な利用者へはチェック表を作成し、状態の把握に努めている。	便秘の状況を踏まえながら、オリゴ糖を活用しスムーズな排便に配慮している。自宅にいた際には失禁が多くオムツの使用だったが、入居後の生活を見ながら無理のないよう言葉掛け、誘導を実施し、尿取りパットに切り替えた事例がある。反対に、オムツに変更する際も、本当にオムツで良いのかを検討し対応している。居室内で放尿してしまう際も根本的な理由を考え、本人と話し合うことで、ポータブルトイレの利用に至った事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の入居者については、かかりつけ医に相談し対応している。下剤の服用についても医師と相談し調整を行っている。また、水分量もチェックしながら配慮している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や本人の習慣に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。拒否がある場合も、時間を変えたりや職員が交代し声掛けしている。	基本的には毎日午前中に入浴できる体制になっており、週2～3回を目安に入浴支援している。入浴を拒否した際は、言葉掛けの仕方や、対応する職員、入浴日や時間等その都度変更しながら、本人に合わせた入浴の支援を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を尊重し、集団生活から孤立しない様、見極めながら支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個人ごとに仕分けし、管理している。服薬についても、服薬リストやお薬の説明表があり、変更時その都度確認している。また、服薬の際個別の対応が必要な場合はかかりつけ薬局に相談し対応している。処方された薬についても疑問があれば、薬局への確認を行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力の発揮が出来るよう、得意な事で役割が持てる様配慮している。嗜好品や趣味なども楽しめるよう配慮し、散歩・草取りやレクリエーションも継続して行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参りや法事などはご家族の協力を得て支援している。本人の意向に沿って、季節のイベントなど馴染みの場所への外出も支援している。季節に合わせた外出(花見、紅葉など)や誕生日の夕食等。	バラ園や果樹園等へドライブを計画し楽しんでいる。家族の協力による外出も行っているが、家族での対応が難しい場合でも外出の機会をもてるよう配慮している。移転してきた敷地内に広場が整備される予定となっており、気軽に散歩にも行けるようになるため、楽しみにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段金庫に保管しているが、購入時の支払については、個々の力量に合わせて対応している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を支援している。遠方から届いたはがきや手紙は、居室に飾り喜んでいただけるよう配慮している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに気に入った場所や人がおり、椅子・テーブルの配置に配慮している。また、花を飾り、季節を感じて頂けるよう配慮している。	ユニットごとの雰囲気があり、それぞれの利用者に合わせて、ソファやテーブルの配置に気を配っている。歌を歌うのが好きな利用者が率先して歌詞カードを配布し、食事前に歌を歌ったりと、みんな楽しそうに過ごしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者にはそれぞれ気に入った居場所があり、気分よく過ごせるよう椅子やテーブルを配置している。新規入居者にあわせ見直しも行っている。制作した作品を飾るなど工夫もしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、布団や・写真などを置かれている。タンスなど使い慣れた家具を持ちこまれたりと居心地良く、安心して過ごせるよう配慮している。以前は仏具を持参された方もいたが、現在はなし。	各居室には介護ロボット「眠りスキャン」を導入し、必要に応じてベッド上の入居者の状態をリアルタイムで見守り支援している。居室には写真を飾ったり、趣味の刺繍をして過ごしたりと、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事・わかる事を把握し、個々にあわせて家具の配置や動線を考えて安全に過ごせるよう配慮している。混乱や失敗を未然に防ぐよう努めている。また、居室内の配置はADLに合わせて随時対応している。		